

2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年 9月 28日
- 事業名 : 東京こどもホスピス開設に向けた準備事業
- 資金分配団体 : 公益財団法人原田積善会
- 実行団体 : 特定非営利活動法人東京こどもホスピスプロジェクト

① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗 状況 *
1-1 相談窓口の設置、支援提供、相談支援の周知 1-2 地域の支援機関への周知、他機関との連携・協力関係の構築、支援について協議・相談を実施	・相談件数	・相談件数 80 件／年	2024 年 3 月	2021 年度 10 件、2022 年度 9 件の相談。LTC の子どもの家族から支援内容についての問い合わせが来るようになってきた。	3
	・チラシ、パンフレットの配布枚数	・チラシ配布（利用者向け 3000 枚、支援者向け 1000 枚）	2024 年 3 月	利用者向け <u>3000</u> 枚、支援者向け 800 枚作成し配布	2
	・案内、連絡した機関の数	・案内、連絡した機関 50 か所以上	2024 年 3 月	事業についての案内を病院や自治体を実施 30 か所	2
	・連携、協力の回数	・連携、協力の回数：50 回以上	2024 年 3 月	病院、保育園など 5 か所と協力関係を作り、2 か所で相談支援を行う場所を提供していただくことになった。	<u>3</u>
	・協議会や勉強会の回数	・協議会、勉強会の開催や参加 6 回/年	2024 年 3 月	勉強会への参加 2021 年 6 回、2022 年 3 回。小児在宅医療サポートチーム勉強会等	2
2-1 こどもカルテの作成、こどもカルテを用い	・こどもカルテの利用数	・こどもカルテを利用した支援を実施	2024 年 3 月	支援記録として利用	3

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
た情報入力、情報管理、支援内容の決定	・他機関との連携支援の件数	・他機関との連携支援が行われている	2024年3月	連携支援の実施がまだない	3
2-2 他機関との連携支援、こどもカルテの活用検討	・他機関との連携ツールの活用状況	・他機関との連携にこどもカルテが使われるようになっている	2024年3月	連携支援の実施がまだない	3
3-1 在宅で外出可能なLTC の子どもに対し学び/遊びができる場を設置、利用者募集、実施	・学び/遊びの開催日数、参加人数	・週1日、のべ人数30人以上の参加	2024年3月	コロナ禍で定期的な開催が難しかったが、2022年1月より週1回実施。 LTC の子どもの利用は進んでいない。	2
3-2 入院中や自宅療養中のLTC の子どもにロボットを用いた学習支援を実施、医療・教育との連携	・ロボット支援の回数、参加人数	・ロボット：1年目4名/月、週1回	2024年3月	2021年10月より実施 4名が体験利用。 継続的な利用はできていない。	3
	・チラシ、パンフレットの配布枚数	・チラシ配布1000枚	2024年3月	利用者向け1000枚、支援者向け500枚作成し配布	2
	・支援内容の紹介動画	・紹介動画の作成、配信 随時	2024年3月	YouTube 動画の作成を開始	2
4-1 子どもを亡くした家族のグリーフケア ・グリーフケア講演会の実施	・講演会回数、研修開催日数、参加人数	・講演会1回/年、研修会5日×2回実施	2024年3月	グリーフケアの講演会を、2021年8月、2022年6月の2回実施。	2
・グリーフケアの実践	・グリーフケアの理解度	・グリーフケアへの理解が進んでいる	2024年3月	2022年下期以降に実施予定	3
4-2 グリーフケア人材育成 ・グリーフケア研修の実	・グリーフケアボランティアの人数	・グリーフケアの実践:週1回、のべ人数10人以上の参加	2024年3月	2022年下期以降に実施予定	3

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況*
施 ・グリーンケアボランティアの登録					
5-1 講演会、シンポジウムの開催	・賛助会員数	・賛助会員(個人)100名以上	2024年3月	賛助会員(個人)は53名に増加。	2
5-2 ボランティアの登録 5-3 ホームページ、SNSで活動を発信	・ボランティア参加人数	・イベント開催時にボランティアが集まってくる	2024年3月	準備委員会18名、周知活動や講演会のボランティア10名。	2
	・ホームページ閲覧数	・ホームページの閲覧者が増える	2024年3月	ホームページを刷新し、閲覧者は増加。	2
6-1 土地の無償提供や建設資金の寄付等、東京子どもホスピス建設に向けた支援	・建設場所	・土地の目処	2024年3月	東京都との交渉継続	2
	・寄付金額	・寄付金額2億円	2024年3月	寄付者のべ210名。運営資金として使用。建設資金の大口寄付は得られていない。	2
6-2 賛助会員の登録	・賛助会員数	・賛助会員(団体)100件	2024年3月	賛助会員(団体)は3件	3

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
講演会のリモート配信

③ 広報（※任意）

- 1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）
 - ・J:COM つながる News（2021年9/8）
 - ・NHK ニュース(2021年12/20、2022年1/17、7/31)
 - ・朝日新聞(2022年1/17、2/8、8/11)
 - ・BS-TBS style2030(2022年3/20)
- 2.広報制作物等
 - ・5/27,6/4 講演会案内チラシ 200部、5月作成
 - ・実施事業の案内チラシ 500部、6月作成
 - ・活動案内、賛助会員募集の三つ折りパンフ 増刷2000部（5月、8月）
- 3.報告書等
 - ・会報誌の発行 2011年11月、2022年5月

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	実施状況の適切性	職員 1 名、代表理事 1 名	東京こどもホスピス理事、事務局
内部	実施を通じた活動の改善、知見共有	職員 1 名	東京こどもホスピス事務局
内部	組織基盤強化・環境整備	職員 1 名	東京こどもホスピス事務局

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
LTC の子どもと家族	支援ニーズへの対応	相談により悩みが解決、安心した。	2024 年 3 月	LTC の子の家族から、支援内容についての問い合わせがくるようになった（月に 1,2 件）。
地域の人々	支援者、協力者の人数	こどもホスピスへの支援が増える。	2024 年 3 月	昭島市および周辺地域の寄付者、ボランティア参加者が増えている。
連携・協力機関	連携・協力機関の種類	連携・協力機関の種類が増えている	2024 年 3 月	病院や行政以外に、子ども食堂や障がい児者の支援団体との連携・協力関係が作れている。
賛助会員、ボランティア、支援者	支援者、協力者の人数	毎年増えている	2024 年 3 月	賛助会員が 53 名に増加。活動に共感して継続的に支援してくれる人が増えている。



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
相談による孤立感や疲弊の改善がされているか(指標:利用者の声) (判断基準=目標値:相談により悩みが解決、安心したなどの肯定的意見が上がる)	利用者からの相談して良かったという声により、相談による孤立感の改善の兆候が感じられる。	LTCの子ども家族から、病院や行政と違う場所として相談された際に、看護師や保健師とは異なる側面から助言することができたことが良かったと思われる。このことから、病院以外に相談できる場所としての存在価値を再認識した。
地域の人々からの支援が増えているか(指標:支援者・協力者の数、目標値:賛助会員、ボランティア参加者等が毎年増加)	賛助会員(個人)は順調に増加し、支援者が増えていると感じられる。	講演会やメディアでの紹介により、新たな支援者が増えている。また、こどもホスピスでの支援に関わりたいという連絡もあり、SNSやメディアでの発信の効果が大きいと思われる。



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい と自己評価する	短期アウトカム6項目のうち4項目について改善の兆候がみられていることから、全体としておおむね達成できると判断した。

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の 適切性	アウトプットの指標は適切に設定されているか	アウトカムにつながるアウトプットの指標は設定できている。ただし、一部の指標は見直しが必要。	相談窓口、学び・遊びの支援、グリーフケア、周知活動、資金調達については、アウトカムにつながる指標設定ができている。一方、「他機関との連携支援が促進される基盤が整う」というアウトカムに対し、こどもカルテによる連携支援は必須ではなく、コロナ禍で連携支援の実施が難しい中でも、連携支援の形を作っていくことが重要だと考える。
	活動は計画通りに実施されているか	講演会等の周知活動は計画通りだが、利用者支援の実施は課題が多く遅れている。アウトプットの目標値見直しと優先順位をつけて活動していくことが必要。	コロナ禍により医療機関等との連携をとることが難しく、支援の中心と考えている小児がんや難病児への直接支援が計画通りに進んでいない。これまでの活動を通じ、支援対象者につながるためには連携が不可欠であると感じているが、狙いとしていた基幹病院を主軸とする連携の構築が難しい現状であり、異なる視点での連携支援の形を考えていく必要がある。また、限られたリソースでの活動に対して、設定したアウトプットが過剰だったと思われる。従って、相談件数、こどもカルテの利用数、学び/遊びの参加人数などのアウトプットの数値目標を見直し、アウトカム達成に向けた優先順位の高いものとして、より連携支援の体制作り注力していきたいと考える。そのために、支援に関わる人材の確保や役割分担の検討を進めていく。
実施をとおした 活動の改善、 知見の共有	アウトプット発生に影響を与えた阻害・貢献要因は何か	コロナ禍が医療機関との連携、支援対象児への関わり阻害要因。設定したアウトプット量に対して人員等のリソースが不足していることが阻害要因。支援対象者を絞	コロナ禍が医療機関等との連携や、病院での子どもへの支援を行う上で支障となり、支援の中心と考えている小児がんや難病児への直接支援が難しい状況が続いている。他方、保育園や障がい児の支援施設とつながり興味を持って頂けたことから、先天性疾患や染色体異常などの障がい児やその兄弟など、幅広く対象とした支援を行うことにより、連携・協力機関が増えてこどもホスピスの周知に役立っている。中間評価の振り返りを行うことで、相談窓口、学び・遊びの支援と周知活動や他機関との連携拡大を両立させていくことが、特にマンパワーの観点から難しいことがわかった。そのため、支援に関わる人材を確保し、役割分担ができるようにするこ

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
		らなかったことが、連携・協力機関を増やす貢献要因。	とが必要と思われる。
組織基盤強化・環境整備	組織の体制・事業体制は事業目標に対して適切かつ十分か	これまでの活動は実施できたが、事業の実施範囲が広がる中で、今後注力すべき活動を行うために、人員補充などの体制強化の検討は必要。	これまでの活動は、最低限の人数でやりくりすることができた。しかし、マンパワーの不足により連携支援など進めるのが難しい面もあった。そのため、注力すべき活動を行っていきけるように、人員確保も含めた環境の整備が必要と考える。今後、学び・遊びの支援、グリーンケアの事業に対し、ボランティアも含めた人材の確保や育成を行い、連携支援や資金調達に力が入られる体制にしていく必要がある。ボランティアマネジメントについても必要と考える。

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

- ・ LTC の子どもの祖母からの相談を受け、病院や行政とは異なる視点で話を聞き助言することができた。
- ・ 保育園やクリニックなどの協力により、学び・遊びの支援、相談窓口につながっている。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

障がい児者の支援団体と、学習支援を通じて連携できるようになった。

④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている

事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</p> <p>と自己評価する</p>	<p>コロナ禍で他機関との連携支援が難しい現状を踏まえ、他機関との連携支援ツールとしてのこどもカルテ活用は将来の目標とし、連携支援についての協議ができる形を作るところまで実施することによって、「他機関との連携支援が促進される基盤が整う」というアウトカムを達成したいと考える。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

<ul style="list-style-type: none"> ・他機関との連携支援をどのように進められるかの検討 ・人材確保
--

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）